

欧米諸国のパビリオンは、長蛇の列、多くの国の展示物を見たいと、すいているアラブ・アジア諸国のパビリオンを見ることにした。

アラブ諸国は、イスラム教を中心に伝統的な文化、生活が息づく国が多い。同じ周辺文化圏でありながら、独特な文化を持つ中央アジア諸国、宇宙を象徴的に示す曼陀羅ネパール・遊牧から近代化と市場経済への移行のモンゴル・東西の文化交流地としてウズベキスタン・カザフスタン・キルギス・タジキスタン共和国は、シルクロード文化のロシア圏、アラブ圏など異種文化が混在する特異な文化・地域で非常に興味深かった。

このシルクロード上の宗教もイスラム教・ヒンズー教・仏教と変化しこれに合わず様に装飾的な物など民族・文化の流れを感じ取れるものであった。

東南アジアの国々は、音楽・舞踊などと伴に伝統的な工芸文化を維持しようとするのが窺える。今、アジアの中で中国が経済的にも大きく躍進しているが、何千年もの歴史が有ながら、余りに欧米化され、伝統的なものがさほど感じられないのが、残念だった。

その中で、タイのOTOP運動 [タイ政府が貧困解決対策を宣言し、一村一品プロジェクト政策を立ち上げ、国内外の市場から求められるような優れた特色ある付加価値の高い良質の製品を開発するプロジェクト]が目をつけた。これらの国々に共通しているものは、近代化に向けて伝統的な文化を維持しながら、思考錯誤して緩やかに変化してきて、アジアの風はスローライフ、LOHASに合っていると感じた一日だった。

